ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety
Vol.12
編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町15-18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640
ホームページ http://www.kasetsuanzen.or.jp/ Eメール info@kasetsuanzen.or.jp 各都道府県の支所への お問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

北海道支部	〒060-0807 札幌市北区北７条西４－１－２（札幌丸善ビル４Ｆ）	電話(011)738－0641	ＦＡＸ(011)738－0640
東北支部	〒984-0816 仙台市若林区河原町１－３－24（大和第２ビル１Ｆ）	電話(022)716－6701	ＦＡＸ(022)716－6710
関東支部	〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15－18（日本橋ＳＫビル４Ｆ）	電話(03)3639－1571	ＦＡＸ(03)3639－3980
北信越支部	〒950-0951 新潟市島見町２－11－16（古木工業ビル１Ｆ）	電話(025)282－1031	ＦＡＸ(025)284－7810
中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄３－28－21（愛知建設会館６Ｆ）	電話(052)249－7661	ＦＡＸ(052)242－6280
近畿支部	〒530-0012 大阪市北区芝田１－４－14（芝田町ビル８Ｆ）	電話(06)4802－3071	ＦＡＸ(06)4802－3070
中国支部	〒730-0017 広島市中区鉄砲町５－21（協栄生命広島鉄砲町ビル５Ｆ）	電話(082)511－2051	ＦＡＸ(082)227－2720
四国支部	〒760-0055 高松市観光通２－２－15（ダイヤビル本館７Ｆ）	電話(087)812－0131	ＦＡＸ(087)812－0130
九州支部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前４－10－13（奥村第３ビル４Ｆ）	電話(092)472－7000	ＦＡＸ(092)472－7100

事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
なくそう　安全現場で身体なしあわせ
めざそう　安心して働らける 心豊かな国創り

モデル工事現場で安全点検を実施

国土交通省要請に北信越支部が協力

国土交通省及び農林水産省は、足場からの墜落災害を防止する目的で、今年度から「手すり先行足場モデル工事」をスタートさせており、今年3月には当組合を含む関係業団体に対し、「建設工事の事故防止対策の徹底について」と題した文書による要請が行われています。

これを受けて当組合本部では全国の各支部を通じて組合員へ事故防止対策の取り組みの強化を指示し、各支部でも国土交通省地方整備局への表敬訪問等を通じて、関係行政機関等との連携の強化や建設災害防止協力の申し入れ等を行ってきました。

北陸地方整備局から北信越支部に対し、同局発注の4件の工事について、整備局監督員同行の上で、当組合による安全点検を実施してもらいたいとの要請がありました。

これを受けて同支部ではすでに、この安全点検の実施体制の整備を終えるなど、適正な点検の実施に万全を期しており、今後、各工事別に発注機関、施工業者等と日程調整の上、順次安全点検を実施する予定です。

この安全点検の重点は、「仮設に起因する墜落・転落災害、崩壊・倒壊災害及び飛来・落下災害の防止」とし、安全点検には当組合所定の「メーカー・機材別点検表」を使用することにしています。

なお、安全点検の結果、改善すべき問題点があった場合には、改善依頼書等により、文書で改善をお願いすることとしています。

手すり先行足場 4工事で取組み

仮設安全時評

明治23年4月、琵琶湖疏水の完成は土木技術における日本の独立宣言であったと評価されている。当時の日本ではじめて竪坑を穿ち、長いトンネルを掘り、世界最新の技術であった水力発電を採りいれ、結果として遷都によって衰退のどん底にあった京都を、近代都市として再生に導いた。

この話を『京都インクライン物語』にまとめたのだが、何年かのちになって、本文の一部「瀕水とのたたかい」が『中学生の道徳』の副読本に採用された。その個所を要約する。

竪坑掘削はおびただしい瀕水のために予想以上の難工事となった。外国製のポンプを導入したが、十分な排水機能がない。そこでさらに大型揚水ポンプを取り付けることになった。前のポンプを引揚げ、大型ポンプを据置したところが、その直後に故障してしまった。瀕水は容赦なく竪坑を満たしてくる。

『責任感が安全への道』

土木評論家　田村　喜子

ポンプ主任大川米蔵は滝のように降り注ぐ水に打たれながら、カンテラの薄明りをたよりに修理に没頭した。主任技師であった田辺朔郎はつるべをうたって修理しているところへ近づくとした。大川はどなった。

「主任さん、こんな危ないところへきたらいかん」

「わたしに危なければ、おまえにも危ないんだ」

「わたしはポンプ主任や。ポンプのことは任しといてくれ」

「しかし……」

「来るな」

その声には総合令の田辺でさえ踏みいれさせないほどの威厳があった。

副読本には「考えよう」として設問が付いている。

一．水浸しの大川に目を凝らす田辺は、竪坑の縦でどんなことを考えていたのでしょうか。

二．父母や地域の人たちが自分たちのために活動しているのを見たことがありますか。また、それはどんな気持ちからしているのでしょうか。

中学生はどのような回答を見つけ出したのだろうか。

この物語を書いていたころの私は、土木に関しては全くの門外漢であったから、ひとつの山場ともいえるこの場面の描写に意図したものはとくになかった。自らの職務を守り、責任感の腐となって任務を遂行した大川は精神のバランスを失い、その夜50対の竪坑に身を投じた。はじめての犠牲者を出した若年の主任技師・田辺にとって、終世忘れがたい痛恨事であったことの記述に主題を置いていたように思う。

その後しばしば工事現場を見学する機会を得て、「安全第一」の標語を目にしながら、一人ひとりが責任を持って自らの職務を遂行することの重要さを理解するようになった。それが安全につながるのだということを、である。

ズーム アップ

共同販売に積極取組み

全国仮設安全事業協同組合理事・北信越支部長
フジ仮設副社長　太田　雅征さん

中部支部に所属していた長野支所が今年度から編入し、名称を北陸支部から北信越支部に変更、新潟、富山、石川、福井、長野の5支所体制となった。105事業所が登録しており、うち24社が管内企業だ。

レンタル業のカバー率は90%程度。今後は実際に仮設を使う為（とび）業者の加入が課題という。「仮設に起因する労災撲滅という組合の目的達成には為（とび）さんの加入が不可欠。しかし当面は第1段階としてレンタル業を固めたい」

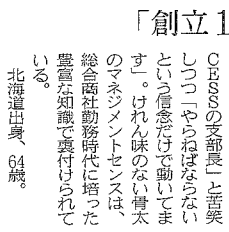
創立後1年の支部活動を「全国9支部のなかでも、かなり活発な方だろう。なにより副支部長、支所長が非常に熱心で、頭が下がる思い」と振り返りながら、「まだ途半ば。さらに加速していかなければ」と先を見据える。各支所ともほぼ毎週、定例支所会を開くなど、横の連絡・連携は万全だ。2000年度は仮設安全監理者の育成に重点的に取り組んだ。110人が資格を取得したという。

01年度は①仮設安全監理者育成②現場の点検実施③共同販売――の3つを軸に活動を展開していく。とくに「共同販売には積極的に取り組みたい。今後の工事の共同受注に備え、実績をつくっていきたい」と意欲を見せる。創立1年のフレッシュな団体とあって「まずは組合の存在感をアピールしていくこと」を念頭に置く。

国土交通省が今年度から実施する手すり先行足場のモデル工事は、北陸では6件程度予定されており、各工事で支部傘下の安全監理者が、整備局の担当者と一緒に仮設の安全点検を実施することになっている。「国にも積極的に取り組んでいただいており、これを機に輪をひろげていきたい」

支部管内を車で奔走する日々。新潟から福井に移動すればたっぷり5時間半。一週間のうち6割はACCESSの支部長」と苦笑しつつ「やらねばならないという信念だけで動いてます」。けれん味のない骨太のマネジメントセンスは、総合商社勤務時代に培った豊富な知識で裏付けられている。

北海道出身、64歳。



「創立1年、まず存在意義アピール」

テーマ研究へ当組合の2委員会が発進

養生ネット　安全性能標準化へ調査

足場機材　改良・開発で労災撲滅

全国仮設安全事業協同組合は、調査研究活動の一環として今年度から、2件のテーマについて研究を進めています。「養生ネット安全性能標準化」と「安全足場機材の開発」で、それぞれ担当委員会とワーキンググループを立ち上げており、いずれも7月から本格活動に入っています。

養生ネット安全性能標準化の取り組みは、工業技術院（当時）の「平成13年度工業標準化調査研究」の一つとして採択されたもので、標準化に向けた防炎性能評価方法、強度のあり方、網目の大きさのあり方などについて実験や調査をします。

具体的には①養生ネットの防炎性能に関する調査②実験②養生ネットの材質・強度等に関する調査および実験――を行い、養生ネットの標準化についての調査をします。特別委員会とWGを組織しており、来年2月ごろにも調査結果をまとめます。

安全足場の開発は、全国中小企業団体中央会からの補助事業で、足場など仮設物に起因する労働災害を撲滅するには「先行手すり機材、2段手すり機材、足場用筋交いおよび幅木を使用した工法が有効であり、現在使用されている機材の改良や開発が不可欠」との趣旨にもとづき、組合として機材開発を進めます。

具体的には、開発技術委員会とWGを設けて、徹底した実態調査と分析のうえ、試作品を製作して実大実験を行い、「安全で安心して作業ができる足場機材の開発を進める」ことしています。来年2月をめどに報告書を提出します。

読者の声

国土交通省の地方整備局に席（籍）を置いている者です。ACCESS新聞は欠かさず読んでおります。

さて、私どもの局でも足場関連のモデル工事の実施を始めました。建設業における現場死亡災害のなかで、足場に起因する件数は残念ながら、依然として多数を占めているところであり、モデル工事の実施を通じて効果的な方策の方向付けが行えるものと期待しているところです。なお、モデル工事を通じた施策でも安全点検の推進を指導しているところですが、聞くところによれば、ACCESSの施工監理者による安全点検活動に対し、元請業者のなかには後ろ向きな者がいるようです。仮に事実とすれば、由々しきことと言わざるを得ません。国土交通省としては元請事業者に対し点検の励行を指導しているところですが、その狙いは建設業界をあげて災害撲滅を図るということであり、元請・下請が一致協力して成果をあげてほしいと期待して止みません。安全は何ものにも優先するということを今一度、再確認してほしいと思います。

（国土交通省職員、36歳）

事故の保証を義務付けてほしい。生命保険には入っているけど、もし事故に遭ったときは、不慮の事故なのか構造的な欠陥があったのか分からないことがあると聞く。そんなことはないだろうが、転落したのに自殺と言われたら残された家族はたまらないだろう。架設した足場が設計通りでなかった場合など、殺人と言われても仕方がないのじゃないかと思う。うちの親方は、けがを弁当は自分持ち、と言う人だから事故保証を役所がしてくれたら助かります。

（匿名）

自分の身体は自分で守るしかないのだ。設置した足場に筋交いが取り付けられていないことなどさらにある。「筋交いがない部分があるので危険です」と言って、「大丈夫だよ、崩れやしない」と言われたことは一度や二度ではない。足場の上で仕事をする者にもなってほしいよ、まったく。

経験から言えば、普段から「天災と事故はいつ起こるか分からないから注意しろ」と言う人に限って大事なことをしてくれない場合が多い。昔は、死にそうな目にあったことのない奴は一人前じゃないとよく言われたが、死んでからじゃ遅いんだよ、まったく。私らは立場が弱いから何にも言えないけど、仮設組合の現場点検活動は助かるし、嬉しい。応援しています。

（型枠大工、56歳）

110人が参加、枠組足場で訓練

関東支部　安全監理者実務研修会

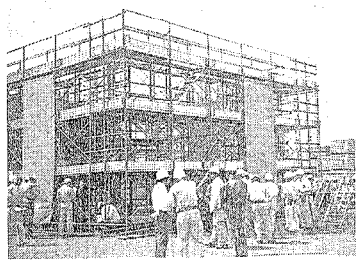
関東支部は7月27日、㈱杉孝の協力を得て同社・市原機材センターに深山美知男千葉労働局安全衛生課主任安全専門官を招き、約110名の参加を得て「第1回関東支部仮設安全監理者実務研修会」を開催しました。

開催にあたり、杉山信夫関東支部長（㈱杉孝代表取締役）より「当組合は1年前に発足し、仮設安全監理者を1,000名以上誕生させるなどの実績をあげてきました。建設業における労働災害は減少しているものの、仮設に起因する墜落災害がいまだに数多く発生していることを認識しなくてはならない。今後は法律の改正も視野に入れる必要があると考える。きょう1日実効ある研修会にしていただきたいと思いますので皆さんのご協力をお願いします」とあいさつしました。

続いて、松本邦宏専務理事より「今後もこのような研修を積み重ねることによって実力を発揮していただきたい。この経験をいかしてどじどじ現場へ検査にいっていただけるようお願いいたします」とあいさつの後、研修用足場の概要を設計・組立の担当者および研修実施要領を支部担当者より説明し、仮設安全監理者30名が6班5名ずつに分かれ、会場に設置された枠組足場を図面、点検表を用いて実務訓練しました。

終了後は会場を市原市民会館に移して、深山主任安全専門官より「私も行政に入って約30年になりますが、手すり先行足場には非常に感心いたしました。しかしながら、まだまだ足場からの墜落災害は数多く発生しております。千葉労働局管内で昨年70件の死亡災害が発生し、建設業で23件約40%を占め、そのうち40%の9件が墜落災害で、足場からの墜落災害が40%の4件発生しております。また、休業災害も全業種で5,218件発生しており、建設業が25%の1,300件発生し、30%・320件が足場仮設通路からの災害です。全体的に安全な足場あるいは仮設機材が使用されておれば墜落災害は40%から50%は防止できるのではないかと思います。ぜひ、皆さん方の力をお借りしたいと思います」との安全講話をいただきました。引き続き、作業所（現場）における検査実施にあたっての留意点の説明のほか、「実務訓練結果についてはあらかじめ設けた改善個所を完全に検査が実施されておりました」との講評があり、盛会のうちに閉会しました。

検査研修会場には国土交通省、農林水産省が足場の安全対策に力を入れている「組立・解体時に安全な足場」として、アルインコ㈱のガードプレース、川鉄機材工業㈱のセフティーH、㈱シンニッタンのセフティーレール、住友金属建材㈱のハイシテイとビティガード、中央ビルト工業㈱のスカイガード、日工セック㈱のウルトラセフティー、日絲産業㈱のデルタF―1、ホリーエンジニアリング㈱のホリーアップの8社9機材の手すり先行型足場の展示会を行い、参加者の注目を集めました。



8社9機材の手すり先行型足場も展示

仮設安全監理者　合格者一覧

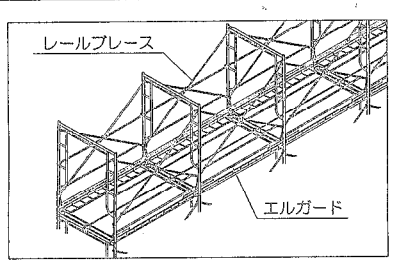
本欄の前号（VO1.11、7月18日付）の仮設安全監理者合格者一覧で、中部支部の合格者に近畿支部の合格者を混同しました。お詫びして、再掲載します。

＝足場＝
▷中部支部＝宮地雅俊、大津博志、高橋正寿、松本潤、山田賀、浅井俊彦
▷近畿支部＝山口洋、柴田久嗣、柳田恵美子、宮崎一雄、澤田鉄舟、辰野恵、藤野泰、大谷正二、高橋勉、大仲興志弘、岩屋昭生、伊和夫、小原嶋次郎、田中康典

労働災害撲滅に貢献する安全な足場機材・企業の紹介　50音順　Vol.3

墜落防止に威力を発揮

レールブレース（2段手摺付きブレース）・エルガード（幅木）



株式会社シンニッタン

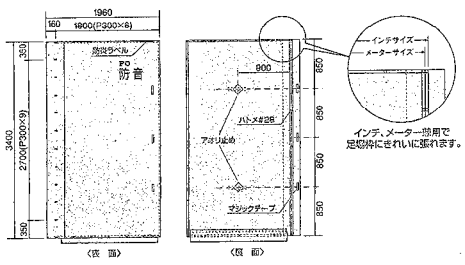
レールブレースは、ブレースに上下2段の手すりを一体化させた構造で、従来のブレースにある開口部からの墜落の危険を防止するため、効果を発揮します。

エルガードは、幅木と床の外側のすき間をふさぐためのL形構造で、墜落と小物の落下を防ぐ脱落が簡便な安全機材です。

この両者を併用することで、枠組み足場の安全性がさらに向上します。

建機販売部（TEL04－4200－7831）

超軽量、環境にも配慮



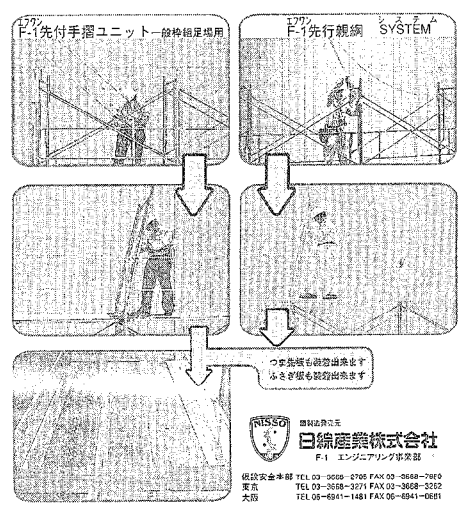
大嘉産業株式会社

従来の塩ビ製防音シートと比較して、重さが半分、施工作業が楽になり、PO防音シートは、ポリオレフィン系樹脂を使用しているため、焼却時に発生する有毒ガスを低減できます。

PO防音シート

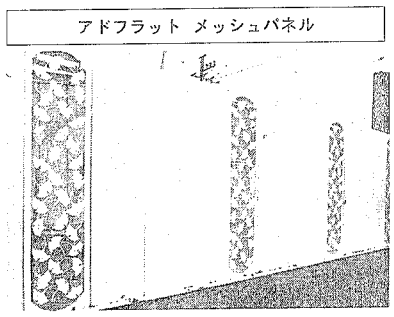
また、軟質で高弾性の素材を使用し、1㎡のシートに仕上げ、音の振動エネルギーを熱エネルギーに変換しますので、防音・防振性能も高い。

本社（TEL06－6543－3231）



美しいデザインで安全を確保

アドフラット　メッシュパネル



日本セイフティー株式会社

アドフラットにパンチ穴を施し、透過性、通気性を持たせた新しいタイプの仮囲い現場の周辺環境に合わせて選べるデザインは、「スタンダード」「イチョウ」「ループ」の3タイプ。仮囲い本来の機能を生かしながら、周辺環境に配慮した美観パネルです。

本社営業部（TEL03－5639－5095－）